

# 教員を対象とした「授業スタイルアンケート」に基づく アクティブラーニング実施率の評価

小林雄志

Evaluation of active learning implementation based  
on the "teaching style questionnaire" for teachers

Yuji KOBAYASHI

## 要旨

授業におけるアクティブラーニングの実施度合いを測定するうえで、学生が実際にアクティブラーニングを実現できたかを測ることは極めて難しい。岡山大学では、教員に対して授業実施内容に関するアンケート（授業スタイルアンケート）を行い、その結果によりアクティブラーニング実施率を調査する試みが行われた。本稿では、この「授業スタイルアンケート」の実施概要とその分析結果について報告する。

キーワード：授業スタイル、アクティブラーニング、授業改善

## 1. はじめに

岡山大学では、第3期中期目標において平成33年度までに全授業の50%がアクティブラーニング授業であることを目指している。アクティブラーニングの定義についてはさまざまなものが存在するが（Wiggins & McTighe, 2005, 溝上, 2016）、岡山大学が理想とする「能動的な学び（いわゆるアクティブラーニング）」とは、「学生が自ら問いを立て、課題に取り組むなど、思考が活性化した状態の学び」とするべきである、といったことが岡山大学全学教育・学生支援機構の高等教育推進室によって提案されており、ここではこの定義を「岡山大学でのアクティブラーニング」として話を進めるものとする。

授業におけるアクティブラーニングの実施度合いを測定する方法としては、上記の定義に従って、学生が実際にそのような学びを実現できたかを測ることが望ましいであろう。しかしながら、それらを実際に測定することは極めて難しいため、高等教育推進室では教員に対して授業実施内容に関するアンケート（授業スタイルアンケート）を行い、その結果により測定することを考案した。本アンケートは平成28年～平成29年度において実施されたが、このアンケートにはアクティブラーニング実施率を調査するという目的以外にも、自分が実施した授業の振り返りや能動的な学びについての考える機会を与え、授業改善を促すという意図もあった。大学の授業に関するアンケート調査としては、学生を対象とした授業評価アンケートが一般的には行われているが、教員を対象に授業の実施状況を全学的に実施している例は少ないものと考えられる。そこで本稿では、この「授業スタイルアンケート」の実施概要とその分析結果について報告する。

## 2. 授業スタイルアンケートの概要

授業スタイルアンケートは前述のとおり、学生が回答する「授業評価アンケート」とは異なり、授業担当者（教員）が自分自身の実施した授業形態や内容について振り返るアンケートであり、「学生との対話」「思考・理解促進」「学習の協働性」「教具などの工夫」の4つのカテゴリから構成されている。「学生との対話」「思考・理解促進」「教具などの工夫」については6問、「学習の協働性」については5問、合計23問の質問を各質問5点満点（1点～5点）で回答するようになっている。質問項目の詳細は表1のとおりである。これらの質問項目については高等教育開発推進室のメンバーが「岡山大学でのアクティブラーニング」の定義に基づき案を出し合ったのち、合議により決定された。

授業スタイルアンケートはこれまでに、平成28年度1学期、平成28年度3・4学期、平成29年度1・2学期の計3回実施された。各回の回答率（回答数/対象者・対象科目）は、平成28年度1学期 25.6%（417/1630人）、平成28年度3・4学期 22.0%（531/2415科目）、平成29年度1・2学期 11.3%（335/2977科目）となっている。（平成28年度1学期では授業担当者ごとにアンケートを行っていたが、平成28年度3・4学期以降は担当科目ごとにアンケートを実施した。）

表 1. 授業スタイルアンケートの質問項目

「学生との対話」
学生の顔を一人一人見て、話をする。
少なくとも 15 分に 1 度は、学生に問いかける/語りかける。
学生の理解度を確認しながら進む。
学生が質問しやすい雰囲気を作り出して、質問を促す。
適宜、学生の意見、解決法、考え、感想などを尋ねる。
学生の発言になぜそう考えるのか根拠を尋ねる。
「思考・理解促進」
「わかったこと」を隣の人と話し合ったりして理解の確認をさせ、自分の意見をまとめさせる。
異なる意見に対して、同意できる点と同意できない点を見つけさせる。
クリティカル（検証的）に考えさせる。
問いを立てさせる。
自分の「学び」について「振り返り」をさせる。
受講者を図書館等学内外施設に行かせて指定したテーマに関する資料を収集させる。
「学習の協働性」
隣の人と簡単な意見交換やペア・ワークをさせる。
グループ・ディスカッションやロールプレイをさせる。
異なる考えとの簡単な意見交換や、ディベートをさせる。
プレゼンテーション（質疑応答を含む）やポスター発表をさせる。
プロジェクト・ワークをさせる。
「教具などの工夫」
映像や Powerpoint などを使って視覚や聴覚に訴える。
クリッカーやタブレットなどを活用し、双方向の授業になる工夫をする。
学習管理システム（WebClass など）を活用する。
ゲストを呼んで、質疑応答を行う。
TA、学生アシスタント、ボランティアの人などの支援を活用する
図書館のラーニング・commons や L-café などグループ活動のしやすい場所を使う。

### 3. 授業スタイルアンケートの分析方法

ここでは授業スタイルアンケートにより「アクティブラーニング度」を算出する方法について説明する。まず、授業スタイルアンケートの質問項目は「学生との対話」「思考・理解促進」「学習の協働性」「教具などの工夫」の4つにカテゴリーに分けられているが、「岡山大学でのアクティブラーニング」の定義に照らすと、各カテゴリーで重要度の比率が異なるべきだということが高等教育開発推進室において議論された。その結果、「学生との対話」30%、「思考・理解促進」40%、「学習の協働性」20%、「教具などの工夫」10%という割合を便宜的に決定し、各カテゴリーの平均点を、この割合によって重みづけをしたのちに合計し（「学生との対話」×0.3 + 「思考・理解促進」×0.4 + 「学習の協働性」×0.2 + 「教具などの工夫」×0.1）、これを授業のアクティブラーニング度とした。

### 4. 結果・考察

授業スタイルアンケートの各実施回におけるアクティブラーニング度の集計結果は図 1～3 のとおりである。

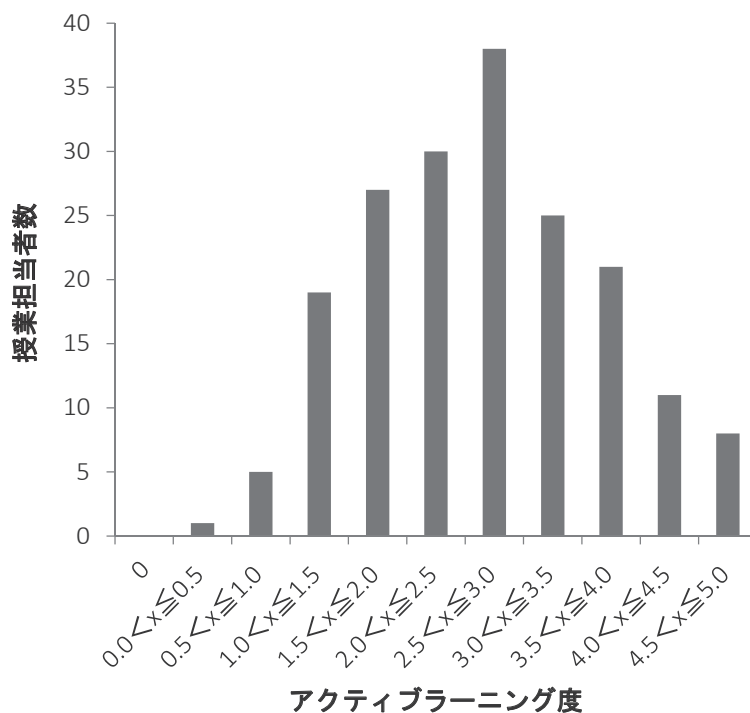


図 1. 平成 28 年度 1 学期のアクティブラーニング度とその分布

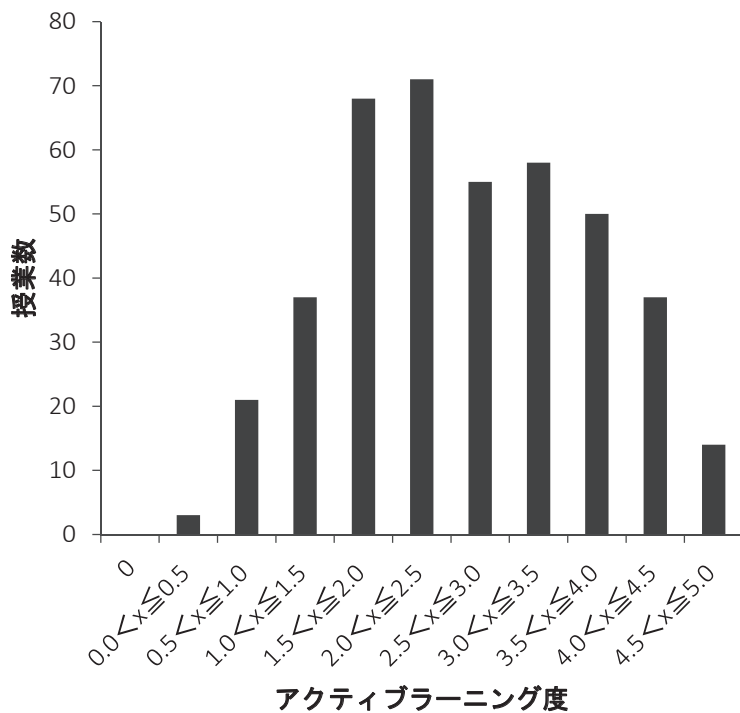


図2. 平成28年度3・4学期のアクティブラーニング度とその分布

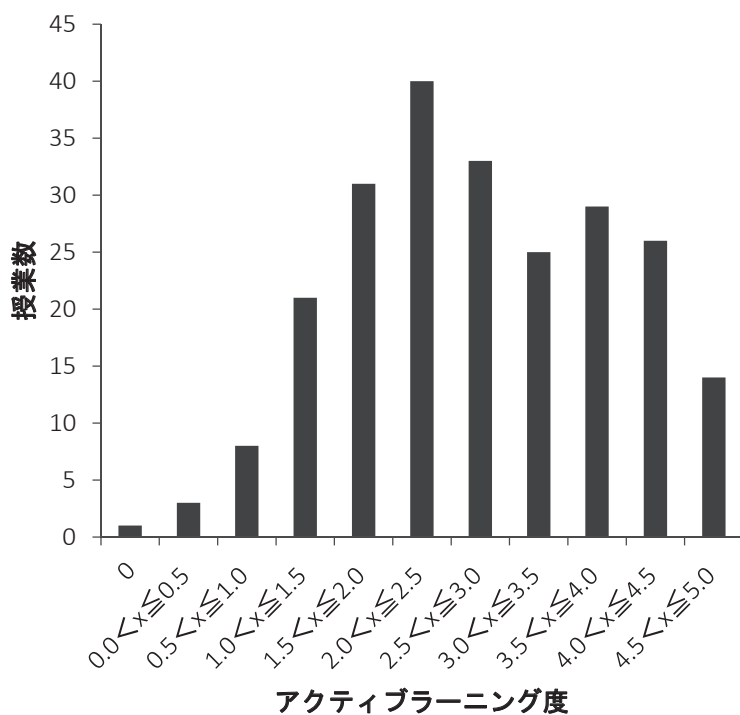


図3. 平成29年度1・2学期のアクティブラーニング度とその分布

図1～3に関して、アクティブラーニング度のおおよその平均値はどの回において2.6～2.7程度となっている。高等教育開発推進室では、アクティブラーニング度が3.5を超える授業を「アクティブラーニングを実践している授業」として便宜的に規定したが、回を重ねるごとにこの割合（アクティブラーニング実施率）が増えていることが分かる。具体的な数字としては、平成28年度1学期は21.6%、平成28年度3・4学期は24.4%、平成29年度1・2学期は29.9%となっている。一方で、グラフの形に注目すると平成28年度1学期については $2.5 < x \leq 3.0$ のところにピークをもつ正規分布に近い状態であるが、平成28年度3・4学期や平成29年度1・2学期についてはピークが2つあるような分布をしており、アクティブラーニング度が高い授業と低い授業に2極化していることが見て取れる。全学におけるアクティブラーニングの普及を考えると、アクティブラーニング度が低い授業群に対して何らかの対策を講じる必要性が考えられる。この点については、より詳細な調査を行い、アクティブラーニング度が低くなっている要因を検討したうえで、対策を実施する必要があるだろう。

## 5. おわりに

本稿では、この「授業スタイルアンケート」の実施概要とその分析結果について報告した。アクティブラーニングの定義やその測定方法についてはさまざまなものがあり、本稿において算出した「アクティブラーニング度」についてはあくまで岡山大学における定義に基づくものであるため、その解釈や他大学への応用には注意が必要である。しかしながら、アクティブラーニングの実施率を教員に対するアンケートによって測定しようとした試みやその報告はこれまでに見当たらず、本稿の事例は他の大学にも参考になるものであると考えられる。今後もさまざまな大学においてアクティブラーニング実施の実態を明らかにしていくような試みが行われ、それらが報告されることを期待している。

## 引用文献

Wiggins, G., & McTighe, J. (2005) *Understanding by design*. Expanded 2nd edition. Upper Saddle River, N. J.: Pearson Merrill Prentice Hall.

溝上慎一 (2016) アクティブラーニングの背景 溝上慎一 (編) 高等学校におけるアクティブラーニング：理論編 (アクティブラーニング・シリーズ第4巻) 東信堂 3-27